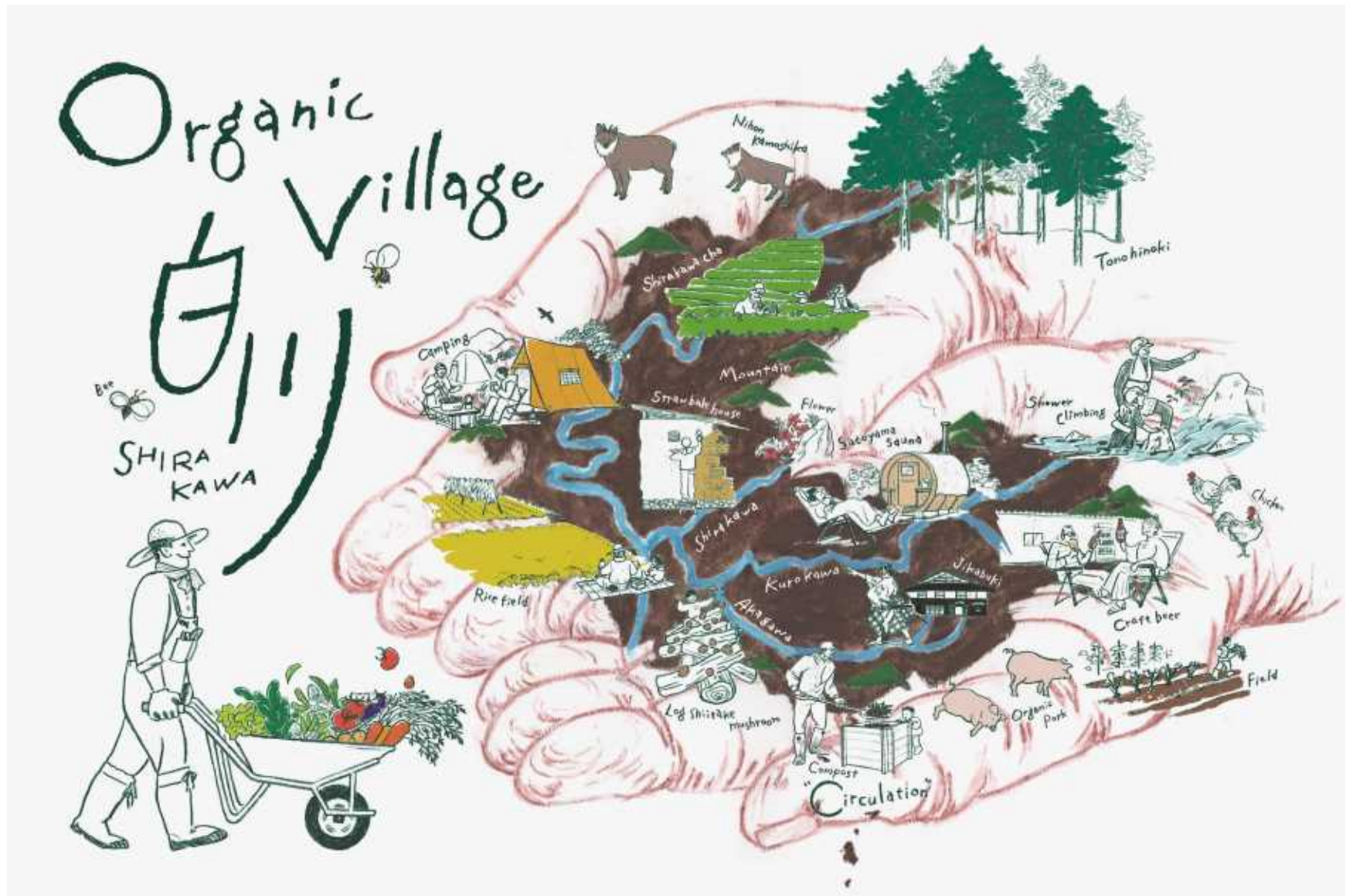


流域でつながる里山の有機農業の可能性

～つながりを、つなぐ。ゆうきハートネットの取組み～



白川町の概要

人口 6897人 (2025年2月1日)
高齢化率岐阜県No.1 (48.1%)

総面積	23,789ha
森林	20,787ha (87.4%)
農地	862ha (3.6%)
宅地	271ha (1.1%)
その他	1,869ha (7.9%)



白川町の概要



白川茶・東濃桧





和ごころ農園

伊藤 和徳（1978年生まれ）

NPO法人ゆうきハートネット

副理事（事務局長）

2児の父

2010年2月新規就農

無肥料自然栽培でお米・露地野菜を育てる
岐阜県有機農業アドバイザー

2014年

人生を変えちゃう深い農業体験を開始

2021年

里山のサウナ主宰

2023年

里山循環型茶業、「日々茶焙」立ち上げ

サウナ・スパプロフェッショナル

方眼ノートトレーナー

お祭りの余興委員長（2024年4月）

好きなお茶：三年晩茶

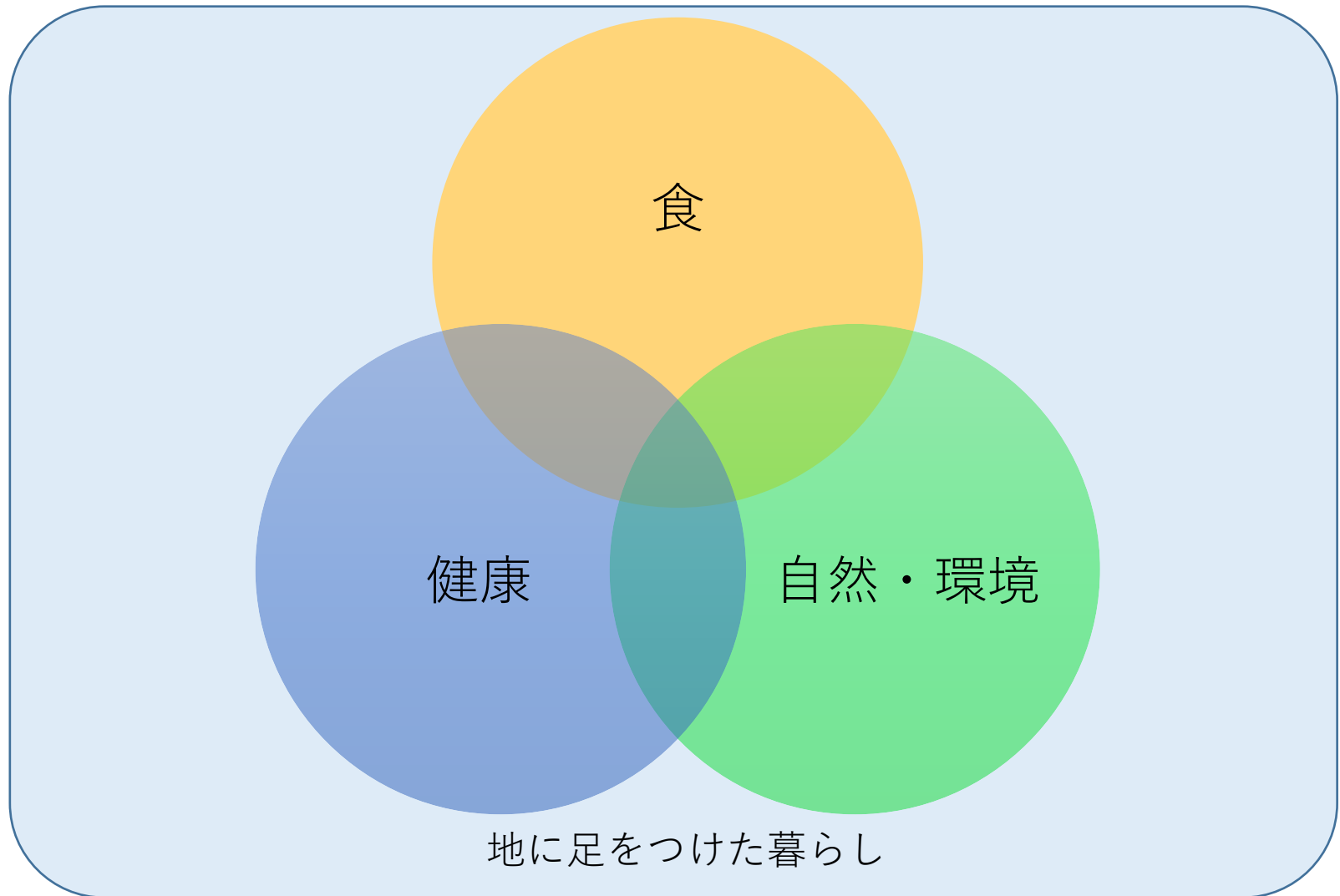


半農半X研究所
塩見直紀さんが25年前に提唱

2003年に発刊

サラリーマン時代に読んで
人生を変えた本です

なぜ有機農業か？



有機農業で生きていきたい！

NPO法人ゆうきハートネットの成り立ち

流域で自給圏をつくりたい

一級河川木曽川流域図

参考資料3-2



上流の生産者は下流に暮らす人のことを想って、環境を守りながら農産物を育て、下流に暮らす人は上流の農産物を買って支える関係



NPO法人 ゆうきハートネットの成り立ち

流域自給というつながりを持つこと

+

生き物へのまなざし。生き物がお米を育てている



共感を生んで仲間を呼び組織となり、
4つの事業が生まれる

NPO法人 ゆうきハートネットの成り立ち

平成10年 有機農業の生産技術研鑽を目的として設立（任意団体）

平成15年 有機稲作の学習と実践（共同で苗作りその後の情報交換）民間稲作研究所方式

平成21年 有機農業推進法モデルタウン事業申請（ソフト＆ハード）

消費者との交流を通じ、有機農業を志す若者を次第に受け入れる

平成23年 NPO法人化
本格的に就農希望者の就農定住支援を開始

平成30年 豊かな村づくり部門で総理大臣賞受賞

令和5年3月 オーガニックビレッジ宣言
（令和4年度～6年度 有機農業産地づくり事業）

ゆうきハートネットのVISION STORY

つながりを、つなぐ。

ゆうきハートネットのはじまりは
ひとつの小さなテーブルからでした。
仲間とともに語りあった未来のはなし。

有機農業という言葉がまだ浸透していなかった当時は
世の中に逆らう端くれ者とよばれていながらも
想いをともにするメンバーも次々と増え、
いつしか時代のまんなかに立っていました。

けれど今、私たちの目の前には大きな壁が立ちはだかっています。
大地は揺れ、風が吹き荒れ、
水があふれることが増えるようになりました。
これからの未来、里山と都市の分断が進めば
里山はなくなり、食べものが足りなくなるかもしれません。

今、私たちにできることはなんだろう。
日本では川の流域にそって生活が営まれているから
こそ、
上流に暮らす私たちと
下流に暮らすみなさんとで
お互いの手を取りあい、心を寄せあって
食、経済、体験や知恵を循環させていくことが
安心できる暮らしを続けていくことにつながると思
うのです。

田んぼにいるたくさんの小さな生き物。
畑でゆらめく色とりどりの草花。
山から湧きでるおいしい水。

当たり前享受着いる自然の恵みが
当たり前じゃなくなってしまうように、
子どもたちの世代へと残していきたい。

私たちが目指すのは、里山とまちが有機的につなが
り続ける世界。
今こそ手と手を取りあい、この輪をつなげよう。
わくわくする未来を、子どもたちへ手渡すために。

白川町の有機農業実施体制

